様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　２ 年　 ６ 月 ３０ 日現在

機関番号：１０１０１
研究種目：若手研究(B)
研究期間：2016～2019
課題番号：１６Ｋ１６８９８

研究課題名（和文）近代日本の政党政治と大蔵省―戦間期を中心に―

研究課題名（英文）Party politics and the Ministry of Finance.in modern Japan

研究代表者
前田　亮介（Maeda, Ryosuke）

北海道大学・法学研究科・准教授

研究者番号：００７３５７４８

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　3,000,000円

研究成果の概要（和文）：本研究では、近代日本の政党政治と大蔵省の関係を、主に世界恐慌後の東アジア国際秩序をめぐるイギリス帝国およびアメリカ合衆国との対立と協調に注目しつつ、再検討した。研究期間内には、とくに日英米三ヶ国における経済政策や国際金融についての史料調査に重点を置き、2年間の在外研究も利用して多くの一次史料を集中的に収集した。これらをもとに、朝鮮銀行バンカーの政治意識、戦時期の国際秩序構想、戦後復興期の北海道開発、について検討を加え、論文や書評として成果を発表した。
また、戦後政治史学の嚆矢となった岡義武『明治政治史』の解説を執筆し、戦前日本政治の破綻要因をめぐる歴史叙述について思想史的に検討した。

研究成果の学術的意義や社会的意義
本研究は、戦前日本政治の破綻要因を、世界恐慌後の国際秩序をめぐる政党政治と大蔵省の関係、さらに英米両国との相互作用から析出しようとしている。経済をめぐる政治的合意の形成が（国内外で）いかに困難になったかという視点は、政治史研究でさほど問われてきておらず、戦間期日本の新しいイメージや説明を提供すると思われる。さらに本研究は以上の破綻要因の析出を通じて、戦後日本政治の再生プロセスにも光をあてることが期待される。

研究成果の概要（英文）：This study reviews the relationship between party politics and the Ministry of Finance in modern Japan, focusing mainly on the confrontation and cooperation with the British Empire and the United States over the international order in East Asia after the Great Depression. During the research period, I focused on the investigation of historical documents on economic policies and international finance in Japan, the US, and the UK. Based on these research, I examined the political awareness of the bankers of Chosen Bank, the visions of international order during the WWⅡ, and the postwar Hokkaido development policy, and published this findings in my articles and book reviews.

研究分野：日本近現代史

キーワード：大蔵省　日英米関係　国際金融家　政党政治　世界恐慌

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。

１．研究開始当初の背景

本研究課題の申請時における背景・動機は、政党政治と大蔵省の関係という日本近現代史研究でほとんど問われてこなかった問題群に接近することを通じて、世界恐慌後の日本政治の破綻要因について新たな理解を見出すことだった。そして日本の政党政治の盛衰と大蔵省の政治的役割の変化を関連づけて分析することで、戦間期から戦後復興期までを「経済政策をめぐる政党政治の崩壊と再建」という展望の下で再解釈することができるのではないかと考えた。

２．研究の目的

本研究課題の申請時における当初の研究目的は、第一に、政治史研究と経済史研究の断絶に鑑みて大蔵省・政府系銀行や世界恐慌に関する国内外の膨大な研究史および史料状況を把握すること、第二に、政党政治と大蔵省の関係という視点を内政のみならず外交や国際関係にも敷衍し、とくにイギリスやアメリカとの相互作用や比較に留意した説明枠組みを構築することだった。したがって、国民への再分配の問題に加え、中国問題を主たる検討の対象に設定した。

３．研究の方法

本研究課題の研究方法は、日本の政党政治の盛衰と大蔵省の政治的役割の変化を関連づけて考察するというものであり、とくに政党のプレゼンスの低下に伴い、大蔵省の役割が再編されていく 1930 年代に注目した。つまり、1920 年代の政党政治と国際協調を支えてきた日本の大蔵省や政府系銀行の官僚が、戦時体制と帝国拡大の担い手に移行していく力学を跡づけることで、上記の研究目的に答えようとした。また、LSE およびプリンストン大学で２年間の在外研究に従事した機会を利用して、マルチ・アーカイバル・アプローチを積極的に取り入れた。

４．研究成果

本研究課題の遂行を通じて、満洲事変後も日本が希望を託していた「帝国経済秩序の国際化」という選択肢が、一方でのイギリス大蔵省の「宥和」外交の終焉、他方でのアメリカの銀政策の転換という、いずれも両国の国内政治（政党政治）に起因する変化によって失われていく過程をあらためて確認できた。また戦後初期の日本でも、1930 年代の帝国経済秩序の残滓というべき秩序構想やイデオロギーが一定の強度をもって存在し、ただちに「リベラルで開放的な国際経済秩序」に移行したわけではないことを明らかにした。この点に直接かかわる公刊論文はまだ１本（「植民地銀行のインスティテューショナル・メモリー――朝鮮銀行の戦前と戦後」御厨貴編『オーラル・ヒストリーに何ができるか』岩波書店、2019）にとどまり、かつ 1930 年代についてはほぼ分析できていないが、各国で収集した極東経済政策や国際金融関係の史料は膨大にのぼり、今後も日本語ないし英語で論文を投稿予定である。

また在外研究の機会に、英米両国の日本研究者コミュニティとの交流を通じて、上記の知見、とくに帝国史への関心の高さを強く感じることができた。近年の英語圏の日本研究ではグローバル・ヒストリーや帝国史がきわめて盛んであり、また北米の日本近代史や政治学では伝統的に、政治経済学的な視点が強い。したがって、本研究で得られた未発表の成果が発表された暁には、国内外に相応のインパクトを与えることが期待される。今後は、高橋財政における帝国政策の再編や、「満洲国」の安全保障と通貨、といった主題を通じて、日本の帝国秩序の拡大に「円」がどのような役割を持ったのか、円系通貨の普及に密接にかかわり、他方で支えられていた現地軍との相互作用にも注目しつつ、経済史ではなく政治史の視点から接近していきたい。

当初予期していなかったこととしては、帝国史のサーベイで伝統的な政治外交史のみならずインテレクチュアル・ヒストリーの成果を取り込む必要に迫られたことである。これについては最新の研究書である Or Rosenboim, The Emergence of Globalism： Visions of World Order in Britain and the United States, 1939-1950 (Princeton UP, 2017)の書評論文を『アステイオン』89 号（2018）に執筆した他、岡義武の歴史叙述の思想史的分析（「戦後政治史学の誕生」岡義武『明治政治史』上、岩波文庫、2019）、大日本帝国憲法の制定（「大日本帝国憲法――政治制度の設計とその自律」小林和幸編『明治史講義　テーマ篇』ちくま新書、2018）や帝国日本の主権論（「明治憲法の論点――主権論を中心に」小林和幸編『明治史研究の最前線』筑摩選書、2020）についての概説、君主と貴族院の関係をめぐる政治思想史（「「皇室」の藩屏は有用か？――近衛篤麿と谷干城の立憲君主制論」御厨貴『天皇の近代』千倉書房、2018）、戦後北海道開発（「開発・防衛・民主化――田中道政（1947-1959 年）における「革新」の射程」『開発こうほう』670、2019）や明治期の道州制（「幻の「道州制」 ――日露戦争前夜の府県廃合論争」（『日本歴史』850、2019）についての小文、などの多彩な成果を発表することで、対応していった。やや回り道となったが、結果として本研究課題をより包括的な視点から進めるうえで重要な修正だったと考えている。

この他、近代日本研究を海外において発信する必要から、「明治 150 年」にも鑑み、イギリス日本研究学会（BAJS）で明治維新期の内戦と建軍について報告を行い（2018.9.7）、さらにブリ

ティッシュ・コロンビア大学が主催するポッドキャストに出演して 30 分英語のインタビューに答えた（2019.7.12）。これらは今後の国際的発信において重要な前提となると思われる。また、日本語ではあるが、慶應義塾大学の比較政治セミナーに招待され、「戦後日本の公的金融機関と政党政治：1949～1957 年」と題した報告を行った（2016.11.12）。このように国内外で、および専門の垣根を越えてひろく発信を行い、貴重なコメントやリプライをいただくことができた。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計8件（うち査読付論文　0件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　0件）

１．著者名 前田亮介	４．巻 866
２．論文標題 書評と紹介 末木孝典著『選挙干渉と立憲政治』	５．発行年 2020年
３．雑誌名 日本歴史	６．最初と最後の頁 印刷中
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 前田亮介	４．巻 91
２．論文標題 グローバル化のもとでの分断と連帯	５．発行年 2019年
３．雑誌名 アステイオン	６．最初と最後の頁 157-161
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 前田亮介	４．巻 89
２．論文標題 「戦中」のグローバリズム――ポスト主権の政治空間をめぐる国際秩序構想	５．発行年 2018年
３．雑誌名 アステイオン	６．最初と最後の頁 156-161
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 前田亮介	４．巻 850
２．論文標題 幻の「道州制」 ――日露戦争前夜の府県廃合論争	５．発行年 2019年
３．雑誌名 日本歴史	６．最初と最後の頁 55-59
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 前田亮介	4．巻 670
2．論文標題 開発・防衛・民主化――田中道政（1947-1959年）における「革新」の射程	5．発行年 2019年
3．雑誌名 開発こうほう	6．最初と最後の頁 28-32
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 前田亮介	4．巻 平成29年度
2．論文標題 戦後復興期の北海道開発と政党政治――田中道政の始動から保守合同まで	5．発行年 2018年
3．雑誌名 助成研究論文集（北海道開発協会開発調査総合研究所）	6．最初と最後の頁 153-182
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 前田亮介	4．巻 60
2．論文標題 「長い明治維新」の論じ方	5．発行年 2017年
3．雑誌名 パブリッシャーズ・レビュー（東京大学出版会の本棚 No.12）	6．最初と最後の頁 1-1
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 前田亮介	4．巻 37
2．論文標題 帝国経済秩序と国際経済秩序のはざまで	5．発行年 2016年
3．雑誌名 政治研究会会報（北海道大学）	6．最初と最後の頁 1－3
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

〔学会発表〕　計5件（うち招待講演　3件／うち国際学会　1件）

１．発表者名 前田亮介
２．発表標題 戦後史学史／政治学史のなかの岡義武
３．学会等名 東京大学ホームカミングデイ 法学部企画シンポジウム「近代政治史研究の原点――岡義武の明治・大正史をよむ」（招待講演）
４．発表年 2019年

１．発表者名 前田亮介
２．発表標題 書評報告 池田さなえ著『皇室財産の政治史 明治二〇年代の御料地「処分」と宮中・府中』（人文書院、2019年）
３．学会等名 近現代史サマーセミナー（大阪歴史科学協議会・大阪歴史学会・日本史研究会）（招待講演）
４．発表年 2019年

１．発表者名 Ryosuke Maeda
２．発表標題 Centralizing Military Power between Two Civil Wars: Focusing on Kyusyu problem in the 1870s
３．学会等名 British Association for Japanese Studies（2017年11月応募、2018年9月発表（確定））（国際学会）
４．発表年 2018年

１．発表者名 前田亮介
２．発表標題 戦後日本の公的金融機関と政党政治――1949～1957年
３．学会等名 第３回慶應比較政治セミナー（招待講演）
４．発表年 2016年

１．発表者名 前田亮介
２．発表標題 植民地銀行のインスティテューショナル・メモリー――朝鮮銀行の戦前と戦後
３．学会等名 第１回オーラル・ヒストリー作り方使い方研究会
４．発表年 2016年

〔図書〕　計9件

１．著者名 前田亮介	４．発行年 2020年
２．出版社 筑摩書房	５．総ページ数 270
３．書名 明治史研究の最前線（小林和幸編、「明治憲法研究の論点――主権論を中心に」（135-139頁）を執筆）	

１．著者名 前田亮介	４．発行年 2019年
２．出版社 岩波書店	５．総ページ数 544
３．書名 明治政治史（上）（岡義武著、解説論文「戦後政治史学の誕生」（463-515頁）を執筆）	

１．著者名 前田亮介	４．発行年 2018年
２．出版社 筑摩書房	５．総ページ数 368
３．書名 明治史講義：【テーマ篇】（小林和幸編、「第12講 大日本帝国憲法ーー政治制度の設計とその自律」（197-218頁）を執筆）	

１．著者名 前田亮介	４．発行年 2020年
２．出版社 丸善出版	５．総ページ数 744
３．書名 日本思想史事典（前田勉ほか編、事項「「地方」の成立と政党」（536-537頁）を執筆）	

１．著者名 前田亮介	４．発行年 2018年
２．出版社 千倉書房	５．総ページ数 360
３．書名 天皇の近代（御厨貴編、「「皇室の藩屏」は有用か？――近衛篤麿と谷干城の立憲君主制論 」（81-140頁）を執筆）	

１．著者名 前田亮介	４．発行年 2019年
２．出版社 岩波書店	５．総ページ数 318
３．書名 オーラル・ヒストリーに何ができるか（御厨貴編、「植民地銀行のインスティテューショナル・メモリー――朝鮮銀行の戦前と戦後」（277-307頁）を執筆）	

１．著者名 前田亮介	４．発行年 2017年
２．出版社 吉田書店	５．総ページ数 147
３．書名 御厨政治史学とは何か（東京大学先端科学技術研究センター御厨貴研究室編、「館・ざわめき・場――歴史叙述をめぐる革新」を執筆）	

１．著者名 前田亮介	４．発行年 2016年
２．出版社 東京大学出版会	５．総ページ数 303
３．書名 全国政治の始動――帝国議会開設後の明治国家	

１．著者名 前田亮介	４．発行年 2017年
２．出版社 吉田書店	５．総ページ数 586
３．書名 明治史論集――書くことと読むこと（御厨貴著、「解題――明治史の未発の可能性」（pp.547-566、印刷中（2017年5月刊行））を執筆）	

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考